補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

りが業伴量

て調も等でで引こま実務うをそり備代当50に学

るて調め

時を査用官

代職等地庁で員、買で

き協は専測工続等たす総件じてし盛戦はまれ、問見提き業。るて調め、たん後左

あ整時

たん後右

なの肩

時社上

代会が

で資り

も本の

Ł

り

代いけやっぱの

できな算し官た

しら方に職 あた仕法な員我

まが定ょ庁め

事のつの々

きれし施の物はしまがで時年携校

まの地のく

記登記に

すは

° U U

] ]

スス

土す登の登前

・ 動 名 記 簿 は

建産義名謄

ま産権そな

必販舗

要売等

が 者

い増日

住を

土っ

地てが

上.

はれニ家

空い一題

家通でつ 一り取い

てュ問

、りて

ま加本げ近空

すのでら年き

宅たきるスに

こちらも ご覧下さい 社/〒454-0011 名古屋市中川区山王一丁目8番28号

T E L : 052-331-5356FAX: 052-331-4010

店/岐阜、三重、豊田、東三河、西三河、稲沢、一宮、春日井、関東、東北、福島、奈良 営業所/静岡、関西、伊勢

https://www.shinnichi.co.jp E-mail:shinnichi@shinnichi.co.jp URL

品質マネジメントシステム

IS09001:2015

情報セキュリティ マネジメントシステム

IS027001:2013

。わを

る卒

に補

な償

の人義本調 調を人な査調すをては法有界前 ど対査 記 で認建で象に 述 はし物土地行

ま法い回方所境 、動を者付回 一産述に近へ し般のべつの第 た的所まい工133 いな有して作号 と確者た確物ご 思認に。認等に い方つ今ののて

り動売一に合一必か理一る合一が産の一がは `そ要り部そ場 `そあの動そ必 `動 るに動行のの すを利のり所ので品門の合動のり所産の要左産 よ産い了所 ま解有 分者 5 ま有 4 すはが 3 が産 2 ま有が 1 で記の り調 が所査すを者 所あし あのしす をある すの所 有る工り所2 分る借 よ有 有で 得か て、らか の場場 ま有世 け場家 う者 者は 般を聞 確合等すを帯 る合 にの 立 で 的確き 分の 調ち 認 で 必 注 確

。ら動共のがにいが

会の で 社 場 け 場 意 認 で認取 が預修 要動家 查 入 あの販 動品で期否か たそとしな所大な産同事あ聞る誰 が聞取にすのあにかり別このに、つ有家いが住例りき場々動あきりお動 る動っ預検品のと動な引て者のこ、宅をま取合だ産り取でい産こ産たか討を事も産りきいが協と誰の紹すりもとはまりはてのとはのっし動例あはま取る置力がの倉介。をあ思、すりな、所 が移でてた産とり対しりこいにあ物庫し現行りい 合く片有 、込 持 `い結としま象たにとたよりかのま地 う す双方者 ち 当先預る果す てす外の来がまりま分中す調必慎ん る方のの とにか状 、る とでる判ま前すかの。査要重で主 必か聞確

りと合ががる複不き者査認り員 ま当し用さ借写 物ま場動ま協に出出場数明まと報がまが動すとて者れり機同ま 入す所産せ議発来来合人のすし告出せ決産を 。にはんを注まずはが場 。て書来んめの 。考計のま換な様し 上移すえどにた え 、所合動記にた 。る所 し者せ報 造建あ るす転がのは なん告動有や産載動時関も有 作物る目 場る先 。書産を関のを産点係のは け起 こにリ合 しの場に がと動 れ業そのの主係所しので者で 動 天 合 見 1 ース ŧ 、のは調 ば者の作特張者有て所 あが産ス想スの 産井もえ 場成定すのがい有調確あ査 を裏あな り妥と利定の複

こ明にの



くに正的把動に り保をス置 し は 確 な 握 産 携 長 ま 管 置 ペ く く|場 て最なこへのわ年しし 、たて場ス合 浦 °い合を、 ま大所と確所っ い限有で認有 て補 りの者す 者い償 たや造床 。はのま調 ま配等 場屋作下 す慮の今 、正す査 合根しに を確後基確が業 も瓦動収

増社必 、殊るの も自用収は 加~要設物一後 あら地に測 たいえを調と つも補と に協償験様業増 てコ償し現至会業し々務加そいン事で在つ、界でな発しの 。時て受査い者そ 界てな発しの いン事て在っ まサ例特でても団い特注、後 すル等殊はい設体く殊が官も 、ま立へなな増か業 。のの及 補役情び補すさ補か業加ら務 。れ償で務 償割報類償 `民は 実と収似業 現 コ をまへ継

在ン補経たの続 ま収そを自を す集新積ら収し もにこ もた極経集か 可な的験すし 能事にしる 例紹たた多 な等介補めく っのし償にの て情て事は事 き報こ例

務な集の務

しのな備件方も

`門 量 場 き 業

た頼間識建の加は

も会が築特すそ

`等增務

い査ののは

し依民知

ま有を指 て方民 し難覚導 々間 すい時がっ常常た味討て償限し採て単そえに 。く代、て妥妥、で分、方りも用、にれ、長 もにこ…当当補の析何法ま一し起業ほ自らのおいます。 当者を対した業者の表を対した。 当ななける はいました ままり はいます はいまれる ないまれる はいまれる はいます はいます はいまれる はいまままる はいまれる はいまままる はいまままる はいままる はいまな はいままる はいまな はいまな はいまな はれる はいままる はい はれる はいままる はいままる はいままる はいままる はいままる はい はいままる はいままる はいま つ通と移移法務た課 移移法務た課制のす内者の多のお転転と例か題にある容と経く実っ も変妥あ方先しでと マ に あ化当り法にてすい何当わのはてでな経と

まてはすよ通通ま意検っ補はず定

言もとし験も務た りしとまに、「。うをたばと必決あく験は い基記償は 考成はそとづ憶実自それに、し思いと績らん し思いと績らん

と作く えに ても補ていて数を経ない力償、ま収少、験意 い力償 を実今す集な忘し味 ま す 注務後 蓄いれて 積記かき ぎ 例 し し録けた今 た集ば たにた補後 いのら

を

て常

に建15 よ除い番工工工 比物条用う却工採法法法移例除 較の介対か工法用と、 、転 却 連 法がさあ復曳工 工 部が当場(二) で今れり元家法 は回るま工工に な紹数す法法は 認 か該に則 い介のが 定 で建は です少、除改再 あ物 しるな一却造築

思つ関定法 いい連しの今 まてすた内回 すおる事、は 話空例除建 しき及却物 し家び工の た問そ法移 い題れを転 とにに認工

題につき認定 いす 80

認ま、木な あを産納 とい選に所ら相後はたでて所あ物建昭たれ工ない移通とをら影従でるな、任対有、続、所。はお有り、物和当除て法移も転常認再れ響前なと を断る必分件る用つ質 認し場要にはこ実空的以な、任対有 定た合が当上と態きな上つ選のし者調をす有さ空り者ま動2初該却いを転の先妥め現るをのいと したになた記がが家所のて任申相は査放べ者らき、はす産棟期物工ま認方との当らす場与機たも まめ該いる細でなで有要いさ とれる合え能めに 続 L 財県施しの亡 当と、則きい一者因まれ 定認る必 なに除重 さい一者因まれ、財界施しのにの食に、と定はかした立産が時た相く当状実亡 るし通をめ場要又いほ却要 た除す認再の 却るめ現後当判期不らた弁て管裁点こ続な該態施くれ竹帯さ地定工とらす半該断盟在、。誰を理想でした。 とて常要ら合がはととしな 護を理判でと人っ物で時なら木工れ内さ 工とらす半該断間在 記除妥しれにな建認んて部 法判れる部物す利か実 士行人所のかがた件し点っのが作たにれ さ却当なるはい物めども分

うい定の伴他がもをすきま す理いの `あ放べ家さ今 かく `空今っ棄て」し回 物で当き後ですのにく紹供院誌ます 件除該家さが却物」ら る相該「介  $\mathcal{O}$ と続当そし な こい人しのた い増 工件のに 加法と増「とうがま他物 で しを同加そで要相すの件 て認様にのす因続。空は

っ占て戸の家とをれな募は「の問題家に貸つの用本さこ人とまる手い却れ家用売 に倍数に統 お↓20 な指てく集、そ他題はに分用ま空 的れとかは り318年単るしい、し買ののとなつ類、りき管にてで住、 、的れとがはす状やな用ま てめお↓20 。態借 \_ 用 き加448、る調 < すの そ、なて戸いした ま割 と、査 す合空戸2.1みの 家省

の県了す和本いと業 改がが 元来もしの福 見災年のの てC島 え害東主 で 事 理 す始復日目 2 ま的 動 のるめ旧本的年し務河 、事台だが ての川 行般現業風つ経か担改 支河在もにたちら当修 、早者事 援川は完関令

帰

`のいが

し聞続幸る協地

、取駆国出のにがを本の

る使際す家も一得人手

とて話とか内的がや問

で人国成居住す捜事は と際功所のが索館

を相

を証しで方前途きの現票でか言て倒不ま絶取相住はき

と転なきし足か分て

係のみの返気行寸で聞他の附がに合がは

けかいれ明でえる続所生まて在ら地

、に行ても人がきす削自れに

事が本とにら在でら領題

き人運の力日こ

こ族国般な会の

、すの現

うを前しいが情らる戸るのっの住たが相

らかい

との移相化相

う籍し人て人

重い国住続し続

° 得 ら 名

しにが

てそ某

いの国

、はあが題取さ1た海

こし電

き

もた連郵

らた

の除最い院るまま跡

の親繰にた白途報望族り病。旗中を

`\\`

よ本国国

籍法すら

る

りでも籍問を

り 認

まめ

いね

まて

記

て

た遇

事し

例た

を中

で

忘記年

録憶の

もに間

兼残に

す

で上発相 何生続

らす権

同め籍

要 き

す体か住

報がも籍こ職た事民と職続をかると権場実際はなる。

ょ

2



き故問土多所

もた く関あ場

すり所

てい迂がのっ人、絶回非管た里

ま得しなか題地かが

手妙す常理

をのるに

を現

しな

こと

が付位

多け置

ざにが

かるはし往体限住籍失た

のた国か々がら所のし場

必続ならあなめす無ま本

る

が手係がてにた跡が

り

う

っ所め当題除人

除治な居

き手職

もを員

け立

の多付の

<皆

は節い分

地

、認 該 問 削 1 た 住

さの

れ住

て民

関なし明る追念す

職 続 れ

でのいの

ある出で何る

まこ安手国た籍取すと否段で、を得

しに不れを概ま合

るい

票

が

削

相票判なた

が

で

も自がは戸喪し

でた。い

る姿成全コずも 用 2 お欠シ ナて 、描入し種 タを見べして  $\mathsf{L}^\circ$ りなス昨 ] 手け社 手 て類 ŧ でで い書 L いのわのム ず き切り たまシがとの建当すス社な活物 る の不自 周 後、温明のは、一般のでは 。テで ムは てが償 で調日で人をし面 で図 を現き不積 々きの作 使在て可算 をき面

ま括

す表

要だそ作転素けの成料

る

さ で

せ

ではっを計力を平っ書表

動図い総成定図物特

の移別

と計

単

償積算 システム に思う

Υ さ を せ シロれ記数

要 書面の徴シに つのしスN明書ま始市 てっ版近た駆時等 トにいか対で記使はの がはるり応は憶し頭使名スがレ 必いも定のWが

報にな算価書にがれ ↓は り 計いのス可

す連面て でれにろ え度がを 書掛正さな事本作は いのな間にス 方はあ頭のかにらけ項的業図 ま補いに更テ現が建りに内ら加にれはにに面単ま算ま出テ がめわさ 、ずれ毎用的廃 ク応 い直の4必も標ののんお基 、せる入力め先 ] 月 セし さ考年要の準歩改 。か本基るの力と数し図の加がき る

テけ ムば、ト

で紙ま き スおラまし場定設設め シで補をすなテま積建スすう作。いムせ算物 タれてる補テ の成工場でんのの では、 ・という詳細 ・には数からい。 ・という詳細 ・には数からい。 ・には数からい。 ・には数がらい。 ・にはない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・にはないないない。 ・にはないない。 ・にはないない。 ・には T T 番補ル多をのはは をな訂のででし定つもがさ年 、あ力めぼて い資 る正内す使てしきあ起れの一条 ラ 発には 方料別りでシあ同

き し移しに所の話 大は手に外た行、て在自を す無住地治か 日 る事民が体け

るか銀設他

寺やの様きこ

施のす調

で

れ

ま

で

査 弊

施行

 $\vdash$ 

象 で

設

見

っ苦シ と 調 もかれの  $\neg$ と労ス 、当 し が書添成定算 分が連 で 基 1 面 で 2 業 1 ばか最携 スを テム を付完資 たり 大 ら新も 切 しい開 に 工 ズな発 で 思せ補 ク いる足セタた ま□しルー条補までまこあ

等を作 、作設積 定算  $\sum$ て す す す と る

6, ŧ で き 積た らスム 算 期 で ス テ 待 しにがの ム となうの 向が力 の施場設所社舗般はて農設、備、幸やの様き





さ ら場 かんそれの きき行在在 けにのな自 まに 地の別 で記に規記令産 ま ものな定が和登昨 る こ促りが義6記年う進ま追務年法4 し加化度が月 を いに よたささより 。れれり 9 、相る

、相さ正 て題一続こ罰続れ不 動つ登と則登、動

判

れ調

ま 農設 や養を町仏宿住々た ビ魚有工閣泊宅 ニ場す場 なル

大ら行 私対社 学各も ウ農規特 ス畜模殊給校種等産工な沖、店 な等産工な油 合必とれとに修設がもが すらなよ工 あ るのっる事改りい査れ 事公た移に良まろ対ら 共場転伴やすい象の ゚ゔると様 事合補う河 失業 償用川道なな々

をまの地等路ケるな

た査起た対買のの一理施

象収改新

備

す策もす が 引 必き残年 要続念も と きな残 がり コらわ 口 `ず ナ来か で 対 年

でおル方う設よ学ら <算 てはき 工勧タはお見うツし世ま 場めン、子学でアくにせ 定い楽 、なすは く、同せあまなましまます。 務すま 将さがすし どる目 工 た会来ん好。に最好がら さ社補がきご人近の。 がめ 。せ 場 を は てな き面調いど いへ償居だ家気は士。入コら、族が工は るろい

で程働私た設  $\mathcal{O}$ 査 に 関 で倒査たののや設 わ はが後だ調が製備 き無社ンれとにあ場多 り 多

がと

部た担状

算に

要

被定必

がまな

害

ま必な分稀額回

な

で

のは甚

要り的に、

建 修

物復

等

断生ら前領盤い討に償地なしし、・に変事まし従基の移道 すには 応こ調合移やそ 工事従動業 じれ査 す っ準取転路 も転区の 。補て 損修事後い影損 得補改 ら方あ等画他 て 響失 償移用に償良 の法りを整に 傷復施調 違 にが行査建調の 額転対伴は等 ・ま 必理も 対必にの物査場 算方連う `の 業 積 す要事再 て し要よ結等算合 定法基損公一 の算 と業開 き形方 7 り果の定は をを準失共般 すに発 補用的 原 判 発 か 事 要 地 態法

きが期やのり ガ を変街 て連が様 で 再た内転基 、ス機更区まい基作にす な決や方拡 いま建角大造化にを全たま準成補、つ物、、成を下行体、す等し償 施ての造仮に計水 うの区 行い移成換よ画道た区画 大す準発算改工へせ区事ま 転工地るし化め画整 て の事の高てや `形理 に曳 拠用行と基法構転地のは、 よ家順の位低い都工状は し対者同本に内の区移 番時置差た市事の

一切のし変に たはな聞じ理ら 、いき

لح

思っ

を

を在へり用償へすしル でののまをとは。たへのに、 っ補開 では、 地対 対 出し象方 置ル見従基組建望再る構的転きの合つ準合物者開こ外な出 体がは事定造法のん外業すときの合っ準合物者開こ準、施業が工・移。へで。い換床うて・でのに発と拠用行と基法構転地のは、うえ・価評権決権はいた。 再用希 方る敷格価利め利現ルな んも迷同差解 た解なをも あ惑じが力 を あやは る おとり説言 か て 必いかて かをま明え Ł `い合 け聞す力、すき。にお い要な

しすき

則に合という。 실 。角 築地望れに発区所要特 再困大 先あ建難でま負 費補者ま応ビ外有で別 な 償 画の業の あの せ叱 ア仕し , ごと と 、居 た。 る共のはり以イ様 て図打が把 り補 と有認発を前テ書 下 面合 識注受にムも さやせ発に す額の事等 ら 痛重の者け理と非つ設で注欠の 算事業の て計す者か独い書。のせ自 感要同と た解な常 定情 ご確 いな調コ時不りにい書た作、ン、足ま助スに のせ自 がにと保 れませた。返していることであることであることであることである。 た作 ン 足ま助るに 工皆なの 必対及の し業知サ打ですか特添事様い条 要応び有 る記付計と作件 لح まで識ル合お し各無

り

す

補再ま

事

業

法

がで

して

、内

択開地の必は

人居の こと、 ては、 に区内

が

さ

な二再

額用

算 連

るに

定

す 準

を対移

基補

則同場

 $\mathcal{O}$ り

移。転す要は

備こなる

(T・願いにはないなどはいるのか分とは、 とお願いなととないなとはないなとはないなとはないなとはないのか分がはない。)